

きずな通信 No.40



2021年4月1日
発行 みやぎ地域づくり交流会
事務局 宮城公民館内

地域づくりは人づくり、ふるさとづくり

学生と地域づくり・まちづくり

近年、まちづくりに関心のあ
る学生が増えてきています。こ
こ宮城出身・在住で共愛学園前
橋国際大学に通う濱名美佳さ
んもその一人です。濱名さんは
卒業論文の作成にあたり、みや
ぎ地域交流会にインタビューを
行いました。そして『大学生の
まちづくりで前橋は「めぶく」
か?』という題目で書き上げた
論文は、見事今年の最優秀賞に
選ばれました。今回はその経緯
や想いを伺います。

インタビュー内容

広報委員 栗原（以下、栗原）

始めに、まちづくりに興味を
持ったきっかけを教えてください。
前橋国際大学 濱名（以下、濱名）
もともと入学時はまちづくり
のまの字もなかったのですが、
二年時の授業の一環で慶応義塾
大学の学生とともに前橋市の中
心商店街に関わるプロジェクト
へ参加したことがきっかけで関
心を持ちました。また、同年の
「前橋市を考える」という別授
業で行政の方から旧勢多郡地域
がスローシティ認定を受けたこ
とを知り、その頃からスローシ
ティについても考えるようにな
りました。

栗原 なぜ交流会へのインタビ
ューへと思い立ったのですか。

濱名 当初はアニメの影響から
特に関心が強かった宮城県仙台
市を題材にしたかったのですが、
同県の気仙沼市が前橋市と同じ
くスローシティ認定を受けた地
域だったので、その軸で比較す
る構成で考えていました。けれ
どコロナによって気仙沼市への
現地調査ができなくなってしま
ったので、前橋市の中心商店街
とスローシティエリアそれぞれ
のまちづくりの比較を通して、
学生がまちづくりに関わること
への研究をはじめました。エリ
ア全域をやるのは難しいので自
分の出身地である宮城に焦点を
当てること決めて教授に相談
したところ、宮城公民館の館長
と繋いでくれて、今回のインタ
ビューのアポイントを取ること
ができました。自分でアポを取
るのは大変でしたが、外に出て
学ぶ一歩の大切さを感じました。
栗原 そうして書き上げた論文
が最優秀賞に選ばれましたが、
お気持ちはいかがでしたか。

濱名 四年間の集大成として賞
を頂けるクオリティまで持って
いった自信はあったのですが、

最優秀賞に選ばれるとは思って
いませんでした。発表会では最
後まで呼ばれなくてドキドキし
ました。わたしは研究もゼミに
入る前からやりたいと思ってい
たことがやれて、それが教授に
認めて頂けたのでよかったです。
栗原 改めて本当におめでとう
ございます。最後に、学生が宮
城地区や交流会と関わるにはど
うしたらいいと思いますか。

濱名 やはり学生からすると自
分で地域に足を踏み入れるのは
ハードルが高いので、学生が手
に取れる位置に情報の糸を垂ら
してもらえればいいと思います。
ハレの日のお祭りも興味を持つ
きっかけのひとつです。興味が
ない人に興味を持ってもらうの
は大変なので、それは第2第3
のステップだと考えて、既にま
ちづくりやスローシティに興味
がある学生を入れられれば連続
して繋いでいけると思います。

栗原 ありがとうございます。
ぜひ今後とも何かで関わって
いただけたら嬉しいです。

濱名 4月から就職する関係で
なかなか時間的にも余裕を持つ
ことはできませんが、草刈りな
どスポットで必要なときにやれ
たらと思います。

栗原 本日は貴重なお話しをあ
りがとうございました。

濱名 ありがとうございます。

まとめ

濱名さんは当論文のなかで、
学生がまちづくりに関わる四つ
の要素として、情報発信をする
こと、ハレの日以外の素の状態
を見に行くこと、過程から参加
すること、そのまちで人間関係
を築くことを提示されました。

どこの地域もどこのまちも学生
や若い層の参画を求めているの
であれば、学生が地域づくりの
門を叩きやすくなるような方法
について、わたしたちが真剣に
考えるときが来たのかもしれない
せん。

（写真左：濱名美佳さん、写真
右：濱名さんが所属するゼミの
鈴木鉄忠教授）



取材日 令和三年三月十日

（栗原 記）

